

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		☆(すたあと)		公表日		R8年3月23日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1	・ゆったり過ごせる広さがある ・物の配置に考慮し、活動スペースは十分に確保している	・引き続き十分なスペースを確保した上で子どもが安全に過ごせるように配慮する	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		・職員の配置基準は満たしており、保育士、児童指導員を始め、有資格者を配置している(+加配体制で行っている)	・新入職員の有資格に加え、他資格の取得を応援し、スキルアップに繋げる	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	・施設内に段差はなく、死角がないように配慮している		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・室内の掃除や整理整頓は徹底している ・使用した物はアルコールで除菌している	・引き続き、環境を維持するためにもアルコール除菌や掃除、整理整頓を行う	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	2	・クールダウンがあり個別対応も行える個別対応室がある	・臨機応変に対応を行う	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		・年に2回(1月・7月)に必ず人事考課を実施している ・振り返りや質問シートを設置	・定期的なミーティングや記録の共有を行い、目標設定や振り返りに全職員が関わる体制を強化する	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・保護者アンケートを年1回実施している ・連絡帳や送迎時などを通して、日頃から保護者の意向を把握するように努めている	・保護者へ改善内容や取り組みをわかりやすくフィードバックしていく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・月に1回定例MTや必要に応じて個人面談を行っている	・経験年数に関わらず、意見を出しやすい環境づくりを行う	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	3	・研修内容や助言について職員間で共有し、支援や業務改善に活かすよう努めている	・外部評価の機会が少ないため、外部研修や他事業所の交流を通して客観的な視点を取り入れる	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7	3	・定期的に社内研修を開催したり、外部研修を受講できる環境を整えている	・研修内容の共有方法を工夫し、職員全体のスキル向上につなげていく	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	2	・子どもの発達段階や特性を考慮し、活動内容を検討してプログラムを作成している ・年に1回HPを通して公表している	・支援プログラムの内容を分かりやすく発信し、職員や保護者への周知を強化していく	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		・面談や日々の観察を通して子どもの状況を把握し、保護者の意向も踏まえて計画を作成(基本的には6ヶ月に1回見直し)	・情報共有の機会を増やし、支援の質向上につなげていく	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・児童発達支援管理責任者を中心に支援会議を開き、情報共有を行い、子どもの状況について意見交換している	・職員全体がより深く計画内容を理解できるよう、共有方法の工夫を行う	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	・専用ソフトでパソコンを使用し、職員全員が個別支援計画を閲覧できる環境がある ・MTを通して方向性を確認している	・引き続き、専用ソフトにて更新を行い、職員が閲覧できる環境を整える	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	2	・日々の行動観察や記録を通して子どもの様子を把握している		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		・子どもの特性や発達段階を踏まえ、具体的な支援内容を設定している	・定期的に計画内容を見直し、子どもの状況に応じた支援の充実を図る	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		・個々がプログラムを立案した上で、最終的に擦り合わせを行っている	・活動後の振り返りを行い、次のプログラム作成に活かしていく	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・5領域を取り入れ、曜日固定にならないように振り分けている ・季節行事やイベントも取り入れている	・活動内容の幅を広げるために、新しい活動の導入や情報収集を行う	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		・毎日のスケジュールの中で個別活動と集団活動ができるように組んでいる	・子どもの状況に応じた活動のバランスを更に検討していく	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	3		・日々の忙しい業務の中でも、十分な情報共有ができるように、効率的な打ち合わせ方法を検討する
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		・毎日、終礼MTを行い、その日の事実を共有している（方向性を揃えたり、支援に一貫性を持たせるため事実のみを共有）	・今後も共有を踏まえ事業所としての方向性を揃え支援内容を統一していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・質問や困りごとは各職員で記録を行い、記録をもとに振り替えり、支援方法の見直しや改善につなげている	・記録を活用した振り返りの機会を増やし、支援の質の向上につなげる
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1	・基本的には6ヶ月に1回（必要に応じて3ヶ月に1回）行い、定期的にモニタリングを実施することで子どもの状況を把握している	・今後も必要に応じて随時モニタリングを行っていく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	10		・ガイドラインの基本活動を意識し、様々な活動を組み合わせた支援を行っている	・活動内容の幅を広げるために、新しい活動の検討や情報収集を行う
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		・子どもの気持ちや意見を理解した上で、自立につながる支援を行っている	・子どもがより主体的に自立を目指せるように、声かけや環境づくりを工夫していく
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	2	・関係機関と情報共有しながら、子どもの状況把握に努めている
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2		・関係機関との連携体制を強化していく
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		・送迎時の対応やトラブル時の連絡など、必要に応じて学校と連携している	・学校との情報共有の機会を増やし、より円滑な連携を図っていく
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1	・利用していた関係機関と必要に応じて情報共有を行い、子どもの特性や支援方法の引き継ぎに努めている	・就学前施設との直接的な情報交換の機会が限られているため、今後は必要に応じて連携の機会を増やしていく
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	2	・事例がまだない	・必要に応じて情報提供の方法や体制を整えていく必要がある
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	5		・連携の機会がないため、相談や助言を受ける機会を増やしていくことが課題である
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	6	4	・地域のマーチングバンドと合同でイベントを開催したり交流を深めている	・今後も定期的に交流会を行い、経験を広げる取り組みを行っていく
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	7		・業務の都合上、参加できないので、参加機会を確保する事が課題である
34		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・連絡帳や送迎時のやりとりを通して日々の様子を丁寧に伝えている ・保護者の相談にも随時対応している	・保護者との面談や情報交換の機会を、より充実させていく必要がある
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5	・保護者の不安や悩みに寄り添った対応を心がけている	・ペアレントトレーニングなど、体系的な家族支援は十分にできていないため、今後検討していく必要がある
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	・契約時に運営規程や利用者負担額、実費など、丁寧に説明を行っている ・質問などはその場で回答を心がけている	・説明内容が一度きりにならないように、必要に応じて再説明する機会を設ける
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・個別支援計画の作成時には保護者の意向や子どもの様子について聞き取りを行い、支援内容に反映している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	1	・個別支援計画の内容を説明し、理解を得た上で同意をいただいている ・理解しやすいように説明を交えている	・保護者の理解度を確認しながら説明を行うことを意識していく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・必要に応じて連絡を行い、家庭での困りごとにも耳を傾けている	・保護者が相談しやすい環境作りを継続していく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	7		・保護者同士が交流できる機会は十分に設けられていないため、今後は保護者会などの開催について検討していく
41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・苦情や要望があった場合は、迅速かつ適切な対応を心がけている	・今後も保護者が意見を伝えやすい環境づくりを継続していく	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		・InstagramをやLITALICOのブログを通して活動内容や様子を写真を付けて発信している	・情報発信の方法を工夫し、より分かりやすく伝えられるよう検討していく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・契約時に同意を得た上で、個人情報使用同意書に署名をいただき、施錠のできる書庫で保管し、取り扱いには注意している	・今後も個人情報保護の意識を高め、管理体制の維持と確認を継続していく
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・子どもの特性に応じて、わかりやすい言葉や視覚的な手がかりを用いながら意思疎通を図っている	・子ども一人ひとりに合わせた意思疎通の方法について、引き続き工夫していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	4		・地域住民との交流や地域に向けた取り組みは十分とは言えないため、今後検討していく必要がある
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	・年間スケジュールを立て、定期的に研修や訓練を行っている	・実際の場面を想定した訓練や研修を継続して行い、対応力の向上を図っていく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	・業務継続計画（BCP）を策定し、研修や災害訓練を定期的に行っている	・様々な災害を想定した訓練を継続し、より実践的な対応ができるよう取り組んでいく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	1	・服薬がある場合は投薬依頼書を記入していただき、安全に配慮して支援している	・体調や健康状態について、保護者との情報共有を継続していく
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	・食物アレルギーの有無を事前に確認し保護者や医師の指示に基づいて対応している ・職員間でも共有し誤食防止に努めている	・引き続き職員間での情報共有を徹底し、安全な対応を継続していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1	・安全計画を作成し事故防止や安全管理について職員間で共有している	・安全管理に関する研修や確認の機会を継続し、より安全な支援体制を整えていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1	・必要な事項については保護者へ説明し、理解を得るよう努めている	・安全に関する取り組みについて、保護者への周知をより丁寧に行っていく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	・些細なことでも毎日必ずヒヤリハットを日々の日報に記入し、周知した上で再発防止に取り組んでいる	・ヒヤリハットの共有を継続し、職員全体で安全意識を高めていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	・虐待防止に関する研修や確認を行い、職員の意識向上に努めている	・定期的に虐待防止に関する研修や振り返りの機会を継続し、適切な支援体制を維持していく
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1	・身体拘束については原則行わないことを基本とし、やむを得ない場合の対応について職員間で共有している	・身体拘束の適正化について、職員間での理解を深めながら適切な対応をしていく